

事業所における自己評価結果（公表）

児童発達支援

公表：平成31年2月27日

事業所名

わんぱくキッズ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100		自由遊び時など活動に変化を持たせ一つの場所に集中しないようにしている	
	② 職員の配置数は適切であるか	100		可能な限りマンツーマンで活動している	必要に応じて加配している
	③ 生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	80	20	玄関外階段にてすりをつけている	玄関外階段があるが手すりをつけている。視覚で理解できるよう配慮している
	④ 生活空間は、清潔で、心地良く過ごせる環境になっている。また、子供達の活動に合わせた空間となっている。	100		朝と帰りの掃除の徹底	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのCDPAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100		振り返りが重要であると考え、打ち合わせをしている	
	⑥ 保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100		保護者に評価していただくことで事業所がよくなることを保護者に理解してもらっている	全員からの回答あり
	⑦ 事業者向け自己評価及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価表を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公表している	100			公表している
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20	80		今後の課題となっている
	⑨ 職員の質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100		職員会議のたびに勉強している	外部研修で知りえた内容はできるだけ早く全職員で共有している
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子供と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100		ケース会議や日々の打ち合わせで情報を共有している	情報は全職員で共有している
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100			ポータブルプログラムを使用し、発達の把握と促進に努めている
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100		普段から近隣の幼稚園等のパンフレットを集めておく	お問合せがあったときに情報提供できるように準備している

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100		児童発達支援計画について会議で説明する	一人一人の目標やねらいを常に考えつつ、職員間で話し合う機会を持っている
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	100		職員の反省等での意見を参考にしている	職員の反省等での意見を参考に立案している
	⑮ 活動プログラムが固定化しないように工夫している	100		見通しのもてる活動を心がけている	お子さんの視点からすると見通しのもてる活動と言うことで活動の流れは変えずに、内容をお子さんの発達に合わせたものになっている
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100			必要に応じて行っている。来年度は文章の上でもわかりやすく行っていきたい
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100		担当の確認も行う	確認している
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100		担当の子供のみならず、気が付いたことを発言する	担当子供の活動の様子やその他気づいたことを何でも発言できる雰囲気で行っている
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100		担当だけでなく気が付いたことを記録している	毎回の記録は取っている
	⑳ 定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100		6ヶ月に一度以上行っている	見直しの時期でなくても変化があれば、必要に応じてモニタリングを行っている。
関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80	20		障害児相談支援事業所からの要請があれば、子供の状況に精通した最もふさわしいものが参画したい
	㉒ 母子保健や子供・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100			保健師さんや相談事業所の相談員の方とは情報共有行っている
	㉓ (医療ケアが必要な子供や重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100			現在重症心身障害のお子さんのご利用がないが、ご利用となれば関係各所と連絡を取り情報を共有していきたい
	㉔ (医療ケアが必要な子供や重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等を連絡体制を整えている	80	20		現在重症心身障害のご利用がないが、ご利用となれば関係各所と連絡を取り情報を共有していきたい
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容の情報共有と相互理解を図っている	80	20		必要な場合は支援内容の情報共有を行っている。できていない部分もあるので、今後は行っていきたい
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80	20		卒業生が小学生や特別支援学校に行くことはまだないが、必要があれば行っていきたい
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修をうけている	100			児童発達支援センターとの連携は行っている。助言をいただいている
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100			年に1回、近隣保育園との交流を持っている

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	②9 (自立支援)協議会子供部会や地域の子供・子育て会議等へ積極的に参加している	0	100		参加していない。今後の課題としていきたい
	③0 日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子供の発達の状況や課題について共通理解を持っている	100		保護者が話しやすい雰囲気をつくるように心がけている	保護者の方とはお互いに情報を伝えつつ良好な関係となるよう努力している
	③1 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100			ペアレントトレーニングの手法を利用して支援にあたっている
保護者への説明責任等	③2 運営規定・利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100			契約の際には時間を割いて説明している
	③3 児童発達支援ガイドラインお「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100			よく説明し、同意を得られた場合にはご署名と印を頂いている
	③4 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援をしている	100		保護者の表情や心の動きなどにも注意して接している	最低でもモニタリングでは相談に応じている。それ以外の時間でも相談事があれば応じている
	③5 父母会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60	40	保護者同士の連携を取れるように時間を確保している	父母会は設置していない。保護者会は来年度から実施の予定
	③6 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子供や保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100			緊急性のあるものはもちろん、相談には早急に応じられるように体制を整えている
	③7 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子供や保護者に対して発信している	80	20		来年度から実施の予定
	③8 個人情報の取り扱いに十分注意している	100			個人情報には留意して対応している
	③9 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100			配慮が必要な方には優先的に意思の疎通を行うように努力している
	④0 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	80	20		来年度の課題として考えていきたい
	非常時等の対応	④1 緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	80	20	
④2 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		80	20	避難訓練の際には子供を怖がらせないように工夫している	定期的に避難訓練は行っているが、利用が少ないとその日に当たらないこともあるので考慮していきたい
④3 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		100			契約の際の重要確認事項としている

④4	食物アレルギーのある子どもについて、意思の指示書に基づく対応がされている	100			食物アレルギーがある場合は医師の指示書を提出してもらっている
④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100			ヒヤリハットがあれば記載して事業所内で共有している
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100		普段から虐待について話しやすい雰囲気をつくっている	外部研修、内部研修共に行っている
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子供や保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100			現在身体拘束を行う子供はいないが、必要があれば保護者に十分な説明をし、了解を得たうえで、個別支援計画に記載していきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です